

## 令和5年（2023年）の新島の火山活動

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

### ○噴火警報・予報及び噴火警戒レベルの状況、2023年の発表履歴

2023年中変更なし	噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）
------------	----------------------------

### ○2023年の活動概況

#### ・噴気など表面現象の状況（図1）

式根監視カメラ（丹後山の西南西約4km）による観測では、噴気は認められませんでした。

#### ・地震や微動の発生状況（図2-①②、図3）

5月22日から利島付近を震源とする地震の増加がみられ、26日から27日にかけては新島の西側海域でも一時的に地震が増加しました。また、11月15日から17日にかけても主に新島の西側海域を震源とする地震が増加しました。その他の観測結果には、これらの地震増加に伴う特段の変化は認められませんでした。

その他の期間では、火山性地震は概ね低調に経過しました。

低周波地震や火山性微動は観測されませんでした。

#### ・地殻変動の状況（図2-③④、図4、図5）

地殻変動観測では、火山活動によるとみられる特段の変化は認められませんでした。



図1 新島 丹後山周辺の状況  
(12月26日、式根監視カメラによる)

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、東京都及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています。

【計数基準の変遷】

A型地震	2010年10月1日（観測開始）～	瀬戸山南から半径8km、深さ20km以内
B型地震	2010年8月2日～2013年9月30日	瀬戸山南振幅0.8μm/s以上
変更	2013年10月1日～	瀬戸山南振幅4.0μm/s以上

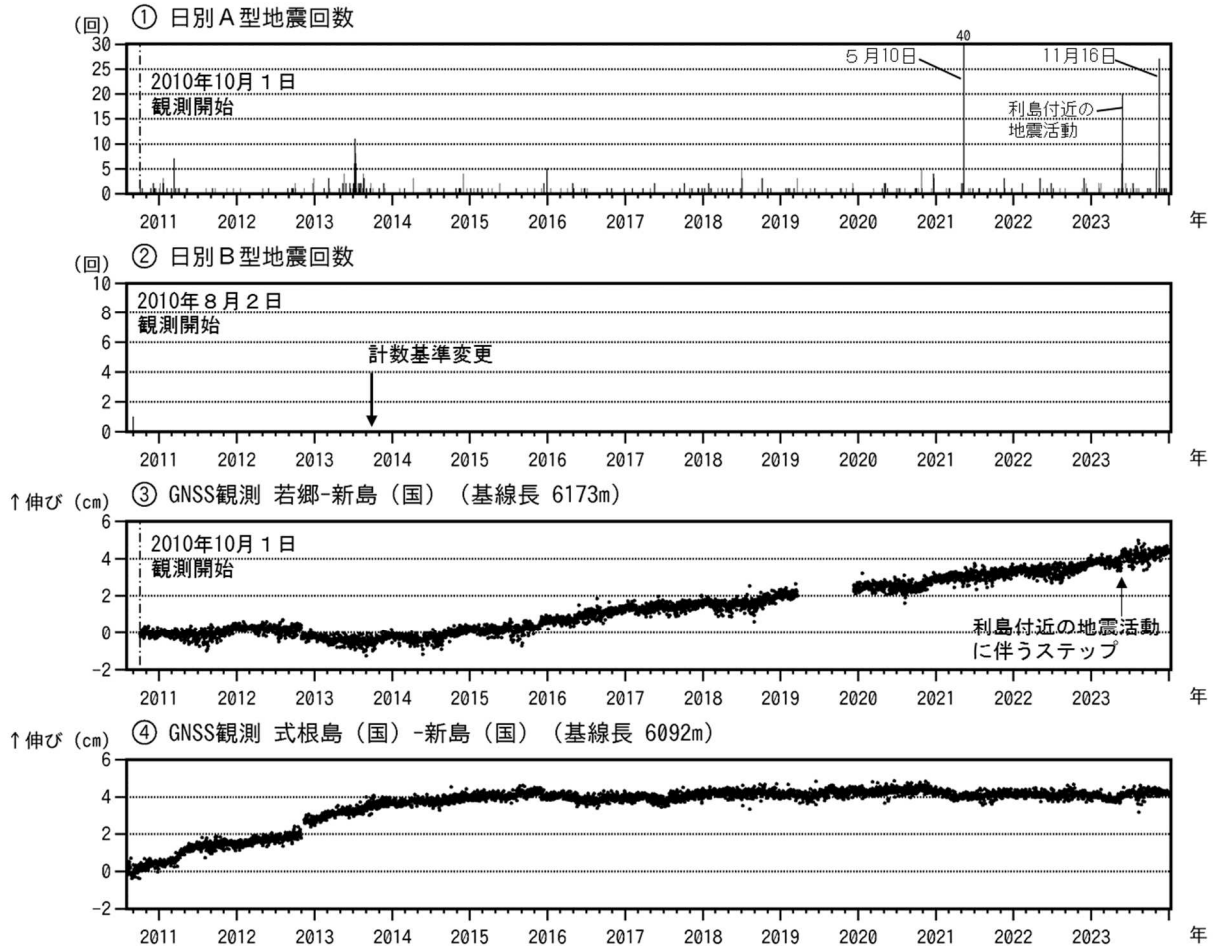


図2 新島 火山活動経過図(2010年8月2日～2023年12月31日)

②のグラフの灰色部分は機器障害のため欠測を示しています。

③, ④のグラフは図5のGNSS基線③, ④に対応しています。また、グラフの空白部分は欠測を示しています。

- ・ 5月22日から利島付近の地震が増加し、26日から27日にかけては新島の西側海域で一時的に地震が増加しました。また、11月15日から17日にかけても主に新島の西側海域で地震が増加しました。
- ・ その他の期間は、地震活動は概ね低調に経過しました。
- ・ GNSS連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。

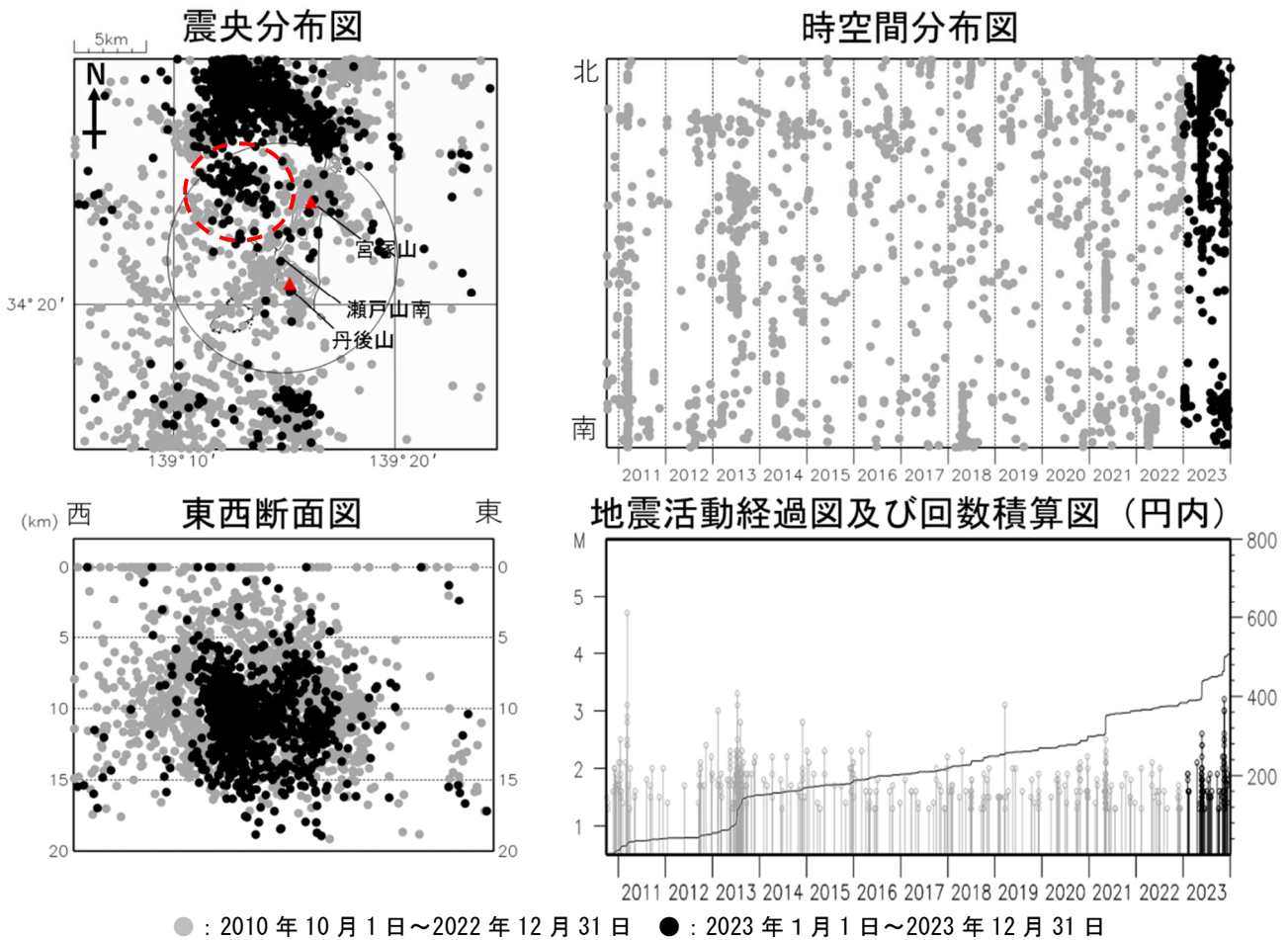


図3 新島 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2010年10月1日～2023年12月31日）  
 広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。  
 M（マグニチュード）は地震の規模を表し、M1.3以上の地震を示しています。  
 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。  
 計数対象（瀬戸山南から半径8km、深さ20km以内）以外の地震が含まれるため、図2-①の日別A型地震回数とは異なります。  
 震央分布図中の円は火山性地震の回数の計数対象（瀬戸山南から半径8km、深さ20km以内）の範囲を示しています。  
 この図では、関係機関の地震波形を一元的に処理し、地震観測点の標高を考慮する等した手法で得られた震源を用いています（ただし、2020年8月以前の地震については火山活動評価のための参考震源です）。

- ・ 5月22日から利島付近の地震が増加し、26日から27日にかけては新島の西側海域（赤点線内）で一時的に地震が増加しました。また、11月15日から17日にかけても主に新島の西側海域（赤点線内）で地震が増加しました。
- ・ その他の期間では山体及びその周辺（円内）に震源が求まる地震は少ない状態で経過しました。

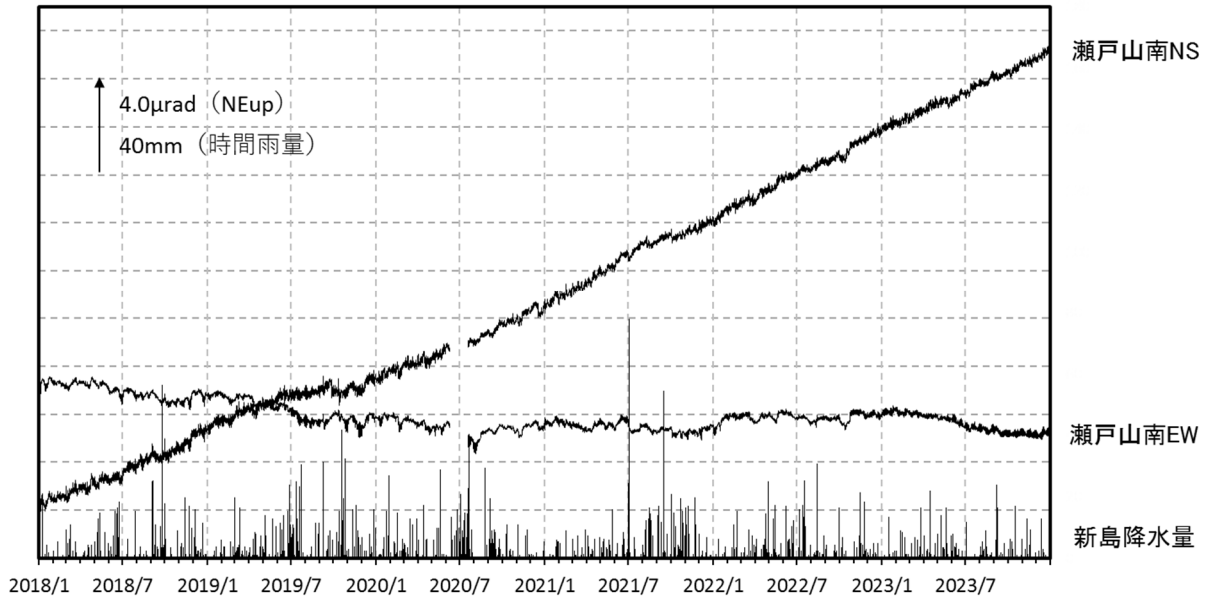


図4 新島 瀬戸山南観測点の傾斜変動（2018年1月1日～2023年12月31日）  
 図中の空白部分は欠測を示します。  
 ・火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。

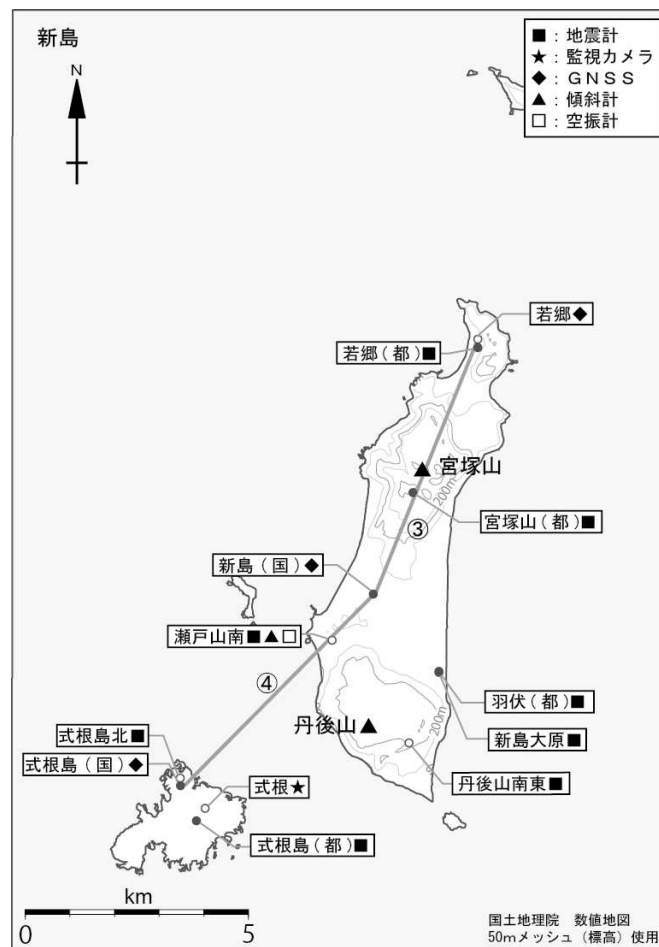


図5 新島 観測点配置図  
 GNSS 基線③、④は図2の③、④に対応しています。  
 小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国)：国土地理院 (都)：東京都

表1 新島 気象庁の観測点一覧

測器種類	地点名	位置			設置高	観測開始日	備考
		緯度	経度	標高(m)	(m)		
地震計	新島大原	34° 21.36′	139° 16.45′	57	0	2010.1.21	
	瀬戸山南	34° 21.76′	139° 14.92′	41	-98	2010.8.2	
	式根島北	34° 20.08′	139° 12.64′	39	0	2012.7.3	
	丹後山南東	34° 20.47′	139° 15.98′	214	-3	2016.12.1	広帯域地震計
傾斜計	瀬戸山南	34° 21.76′	139° 14.92′	41	-98	2011.4.1	
空振計	瀬戸山南	34° 21.76′	139° 14.92′	41	2	2010.8.2	
G N S S	若郷	34° 25.39′	139° 17.02′	18	20	2010.10.1	
監視カメラ	式根	34° 19.70′	139° 13.00′	40		2010.4.1	